

眞想を不明にし嘘偽の報道を社会に送つてゐる。

これは此着過すべからざる重大問題に當面しても其術策に専らする一忍れ多  
分にあるは吾等の想像する処である故に教言察の報道のみを以てしては尚  
疑ふ處をばさざるを得ない、いづゞとして會社の術策に専らせられは  
らぬと注意し、今村、山口、田中、官本の幹部其他多数直ちに一本  
松に向つて活動した。



會社の之れに對する處置と

醫師の診断より入院の運びとなるまで

樞打の場所を患門の処に搦倒された女科ヤク女は多数の者に取まか  
れたまゝ、約二十五分を其処に經過した  
此の慘劇は行爲に教言察は居らぬかとの叫びに五六名の教言官は漸やく  
走り来り、多数の醫師を呼びよめた。  
多数の人は被さる者の供臥してゐる場所を雪溜りにて坭土の中を

をかきめ、適當なる処に運ぶとせよとしか會社傭人等は容易に其手立て  
を取らなかつたが暫くして遂に採銅線と土間に運ば入れた。

傍に居た婦人等は被さる者に水を吹いてやりつとせよ傭員等は

「お前等とやる水はない」と言ひ又土間なればせめて藎なりと貸せ  
ると云ふも伸々に貸與せず遂に多数の傭人の憤怒の聲に教言水及一枚  
の古びた藎を何処からとせよ持ちまゝと等々、斯く惨忍そのもの振  
舞であつた。

此れが約一時間半程して、内科醫官(住友鉱業所医官)一名は来た。  
内科醫官の診断に曰く「只大したことはない、之れは腦充血を起したの  
だけ」と云つた。

傍に居る婦人達は樞打の結果なる事は現と知つてゐるので「そんな  
馬鹿な事はない」と口口に言ふ。被害者の苦しみを股を裂しくなりしたの

「更にしほりくして外科医(住友鉱業所医官)の診断に及ぶ。醫師は  
「之れは打撲だ(右乳房の下アバ)内臓も大分傷んでゐるかも知れない  
此よりかつぎ下せば生命に關するかも知れない



現場の婦人と(名目不明)外科医の對話

